

第20巻 地域包括支援センター通信

◆「仲良しグループ」、「元気の元」、「集まつて会話する場所、集まるための場所」、「認知症にならないように出てくる。出て来て話をするだけで違う。(認知症予防になる)と、日々に言ってくださいました。

また、本日参加のメンバーは年に1回集まって自家製味噌を作つており、自分たちのことを「味噌組合」とも称されます。「味噌を作つた後、花見に行きます。今年はモネの庭に行きました。」とのこと。

他には、山北へ行つたり、花桃を見に行つたり、途中でウナギを食べておいしかった話をもお聞きしました。

◆「元々20～30年前から毎週月曜日に生協を取りに来る人の集まりの場でした。」その後、平成29年12月からは毎週月曜日の午後4時以降を認知症カフェとして位置付けています。

A hand holds a white paper lantern. On the lantern, there are several Japanese characters: '絆' (bun) in the top left, 'ひろちゃん' (hirochan) in the bottom right, and '一の瀬' (Ichi no Nise) in the top right. In the center, there is a large smiley face with two smaller faces on either side. The lantern is held against a dark background.

『ひろちゃん(の瀬地図)』



A black and white photograph of a modern building, likely a kindergarten or preschool, situated in a hilly area. The building features a large balcony with a metal railing. In front of the building is a paved area where several children's play structures, including small tables and chairs, are arranged. A row of small children's bicycles is parked along the side of the building. The building has large windows and a prominent chimney. The background shows a hillside covered in trees.

イルミネーションが贈られ、子どもたちのクリスマス気分を盛り上げていただきました。

同社の町内工事終了に伴い、杉地区の宿舎で飾り付けていたイルミネーションを、ぜひ保育所で活用していただきたいということで実現しました。

これまで毎年冬になると杉地区国道沿いを照らしていた光が、今年は子どもたちの笑顔を照らしていました。

**保育所で
イルミネーション**

● 県森連様からご寄附

12月12日、平成30年7月豪雨の見舞金として、高知県森林組合連合会より100万円を贈呈していただきました。



● 高知県支部で相談員・世話人として活躍されている小笠原千加子さんを講師にお招きし、第2回の認知症まるごとケア研修会を開催しました。

前半は、町住民課地域包括支援センター班から、認知症の方への対応について話をしました。

初期は病院受診が不可欠！認知症の症状が現れる病気の中には、治る病気や一時的な症状の場合がある。

● 認知症状に一番初めに気が付くのは本人。誰よりも一番心配で、苦しいのも悲しいのも本人。

● 認知症は病気。あいまいな表現はせず、具體的に伝える。無理に訂正しない、怒らない。できないと決めつけず、できるようサ

（認知症の方への対応と 在宅介護の話）



A black and white photograph showing a group of six elderly individuals (three men and three women) in an indoor setting. They are all smiling and appear to be engaged in a social gathering or interview. In the lower-left foreground, a woman is holding a white rectangular board with the characters 'ひろきん' printed on it. The background shows a room with wooden paneling and some furniture.

認知症を持つ方の家族は、一人で悩んでいる人が多い。労をねぎらい、無理をしないでと声をかけてもらいたい。

認知症という病気であるということを周囲に知ってもらうことで、理解してもらえること、助けてもらえることがあります。

大豊町には『もの忘れ相談係』として、保健師・社会福祉士が合わせて6人います。もの忘れなどで困っている方や支援が必要な方がおられましたら、住民課地域包括支援センター班までお気軽にご相談ください。

体験そのものが記憶から抜け落ちているため、言動を否定せず、受け止めることが大切。自分で財布などを仕舞い忘れて「盗られた」と言われることがある。本人が自分で気づいて見つけられるようにそれとなく誘導するといい。

また、小笠原さんは認知症を持つ夫を10年以上介護されており、経験談から次のことをお教わりました。

認知症を持つ方の行動には理由がある。介護をするうえで大切なことは、待つこと、はげますこと、ほめること。そして「まあいいか」と思うこと。主治医に悩みや心配事を聴いてもらったりうえで介護関係者や親族に助けてもらいながら介護ができるいる。

認知症を持つ方の家族は、「一人で悩んでいる人が多い。労をねぎらい、無理をしないで」お話を聞かせてもらいました。



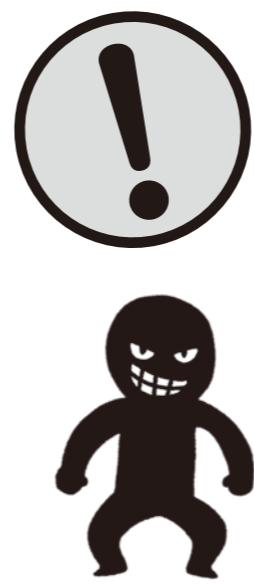
総合消費料金に関する 訴訟最終告知のお知らせ

この度、ご通知致しましたのは、貴方の利用されていた契約会社、ないしは運営会社側から契約不履行による民事訴訟として、訴状が提出されました事をご通知致します。管理番号(わ)315 我取り下げ最終期日を経て訴訟を開始させていただきます。尚、ご連絡なき場合、原告側の主張が全面的に受理され、執行官立ち合ひの元、給料差し押さえ及び、動産、不動産物の差し押さえを強制的に履行させていただきますので裁判所執行官による執行証書の交付を承諾していただかくようお願い致します。

裁判取り下げなどのご相談に関しましては当局にて受け取
わっておりませんので、職員までお問合せ下さい。
尚、書面での通達となりますのでプライバシー保護の為、ご
本人様からご連絡いただけますようお願い申し上げます。

※取り下げ最終期日　平成29年11月10日

法務省管轄支局 国民訴訟通達センター
東京都千代田区霞が関3丁目1番7号
取り下げ等のお問合せ窓口 03-6700-0412
受付時間 9:00～20:00(木・祝日除)



アナタも狙われています！